

令和6年度 全国学力学習状況調査 本校の状況について

1 学力調査の概況

(1) 国語

	児童数	平均正答数	平均正答率
本校	52	9.0/14	64
北海道	34, 531	9.3/14	67
全国	947, 364	9.5/14	67.7

]-3P
]-3.7P

(2) 算数

	児童数	平均正答数	平均正答率
本校	52	8.9/16	55
北海道	34, 531	9.7/16	61
全国	947, 579	10.1/16	63.4

]-6P
]-8.4P

しかし、問題数にすると1~2問の差

平均正答率でみるとやや大きな差がある。

↓↓ 国語ではこんな問題の正答率が低かった ↓↓

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	本校正答率	北海道正答率	全国正答率
2二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	32.7	55.5	56.6

この設問の、どんな間違いをした子が何割いるかという「誤答類型」を見ると、

設問	2二	各類型を示す児童の割合	正答の条件（誤答の状況）
【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	◎	32.7	条件①②③を満たしているもの
		0.0	条件①②は満たしているが、③を満たしていない
		0.0	条件①は満たしているが、条件②は満たしていない ※③は不問
		46.2	条件②は満たしているが、条件①は満たしていない ※③は不問
		3.8	上記以外
	無回答	17.3	

この設問の正答条件は、

- ①「たてわり遊び」のよさについて書いている。
- ②【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書いている。
- ③60字以上、100字以内で書いている。

ですが、本校の児童は「取材メモ」の内容は取り上げているが、「たてわり遊び」のよさには触れていなかった子が半数近くいたことになります。

↓↓ 算数ではこんな問題の正答率が低かった ↓↓

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	本校正答率	北海道正答率	全国正答率
2 (2)	除数が1 / 10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	59.6	65.5	69.1

この問題は、350 kgの米を1人に7 kgずつ配る場合と、1人に0.7 kgずつ配る場合を比べるとどのようなことが言えるかという設問で、回答は2問選択の完全回答です。

①一人に0.7 kgずつ配るとき、配ることのできる人数は50人より多いか少ないか。

②このことから、 $350 \div 0.7$ の商は50より大きい小さいか

もちろん、「多い 大きい」の組み合わせが正解ですが、21.2%の子が誤答したのは、「多い 小さい」という組み合わせです。

つまり、わかっていないわけではなく、やはり「ちゃんと読み取れていない」「よく考えていない」という事も考えられるのではないのでしょうか。

なお、「少ない 小さい」と全く逆の回答をした子（除数と商の関係を理解できていないと思われる子）は7.7%です。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	本校正答率	北海道正答率	全国正答率
4 (1)	$540 \div 0.6$ を計算する	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	46.2	63.3	70.1

この問題の誤答としては「90」と解答した子が30.8%おり、約半分の子は除数が小数の場合の割り算の仕方が身に付いていないということです。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	本校正答率	北海道正答率	全国正答率
4 (3)	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	19.2	26.1	31.1

この設問は、全国的にも正答率に低かった問題ですが、本校は 19.2%の正答率です。

まずは「どちらが速いかを判断」しなければならないのですが、これは 71.2%の子供が正しく判断できています。

ただ、「そのわけをかく」という段階になって、二つの条件を書かなければならないのですが、ひとつしか書いていない子や不足のある子がほとんどでした。

ここでも、「よく読んでいない」「よく考えていない」「比べるという表現の仕方」などが課題になっています。

この設問は、示された 4 つの市のデータから C 市のデータを数えればよいだけなのですが、約 6 割の正答率にとどまっています。

「C 市の」となっているのに、4 つの市全てのデータを数えた子が、9.6%、個別にどのような解答であったかは把握できませんが、その他の解答が 21.2%です。

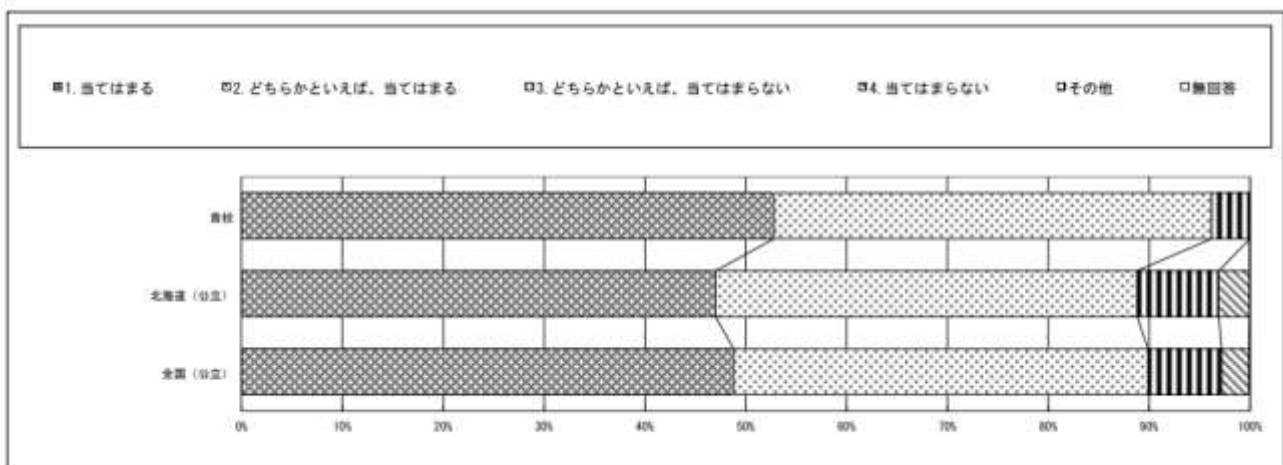
いずれにしても、問題の意味をきちんと読み取れていれば、そう間違えることのない設問です。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	本校正答率	北海道正答率	全国正答率
5 (3)	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	19.2	42.0	44.0

2 児童質問紙

児童質問紙調査で特徴的なものを挙げてみます。

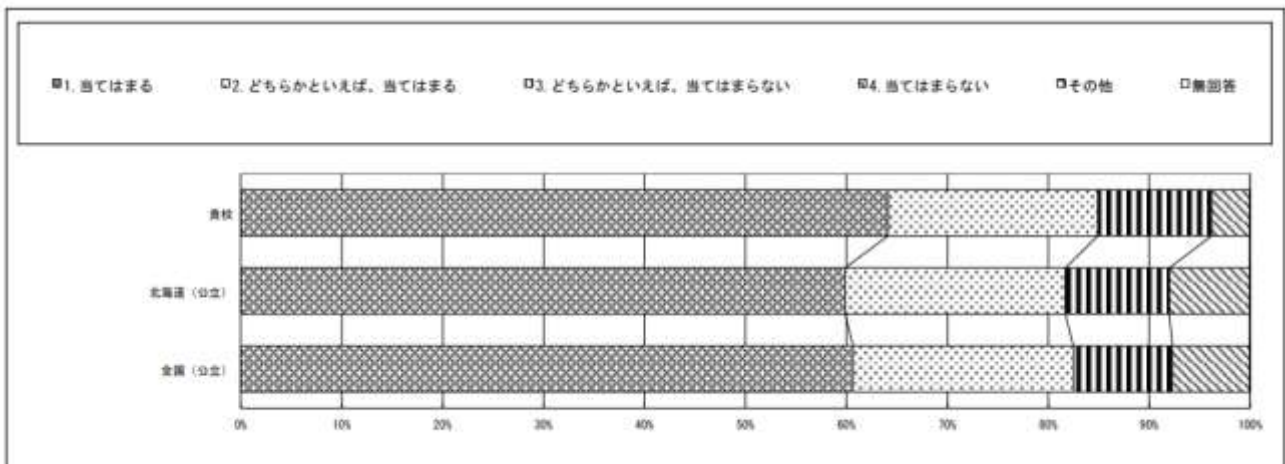
(10) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



素晴らしいです。

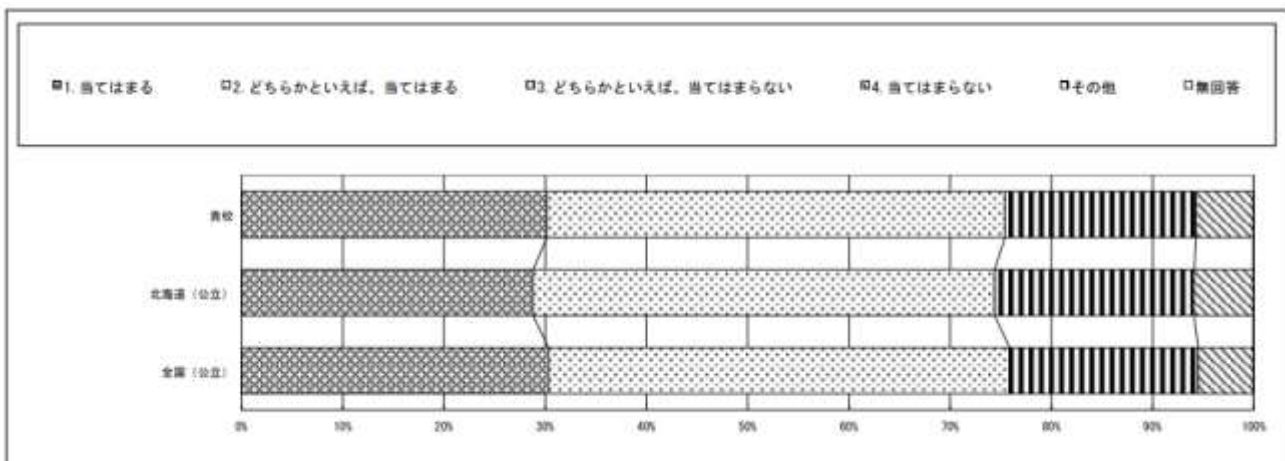
96.2%の子供が「先生に認められている」と思っています。

(11) 将来の夢や目標を持っていますか



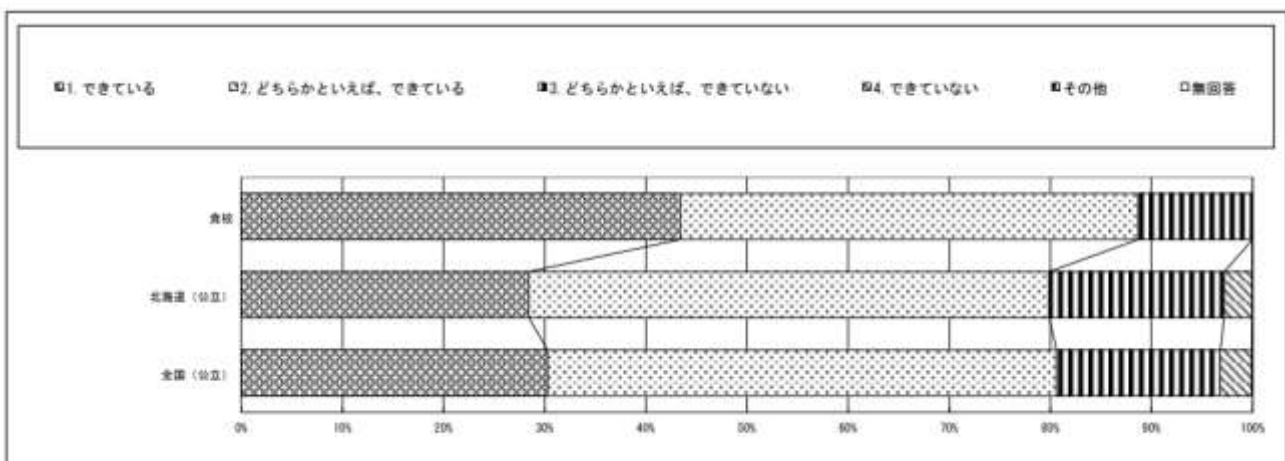
「将来に夢をもっている子供」、85.0%
 全道全国より多いです。
 これは大野小学校の「強み」です。

(17) 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



この設問、85.5%
 本校の子供たちは自分で考えたり、判断したりすることが好きなのだわかります。

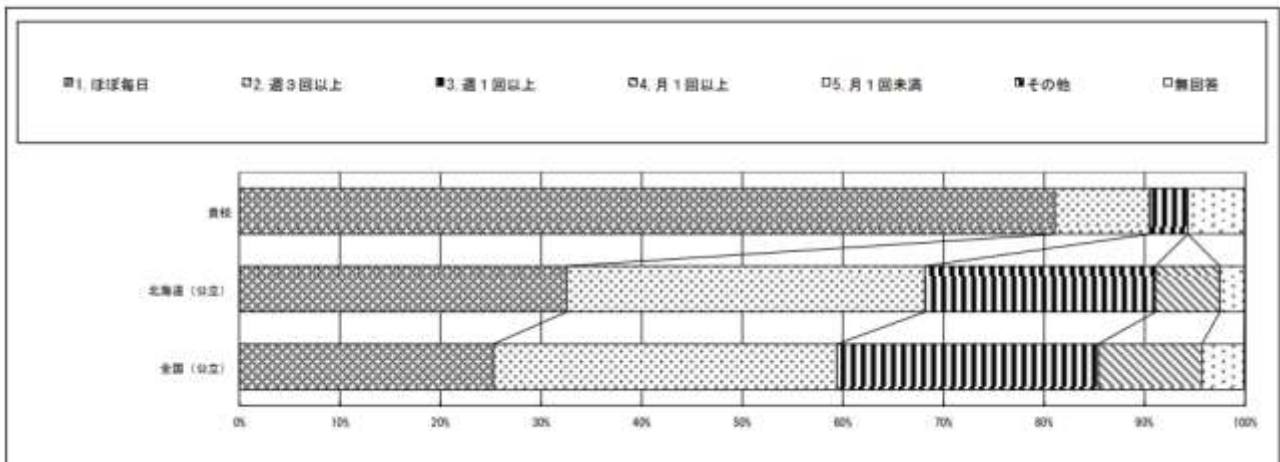
(20) 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



この設問！88.7%

一人一人が自分に合った学び方を工夫しようとしていることが分かります。

(27) 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

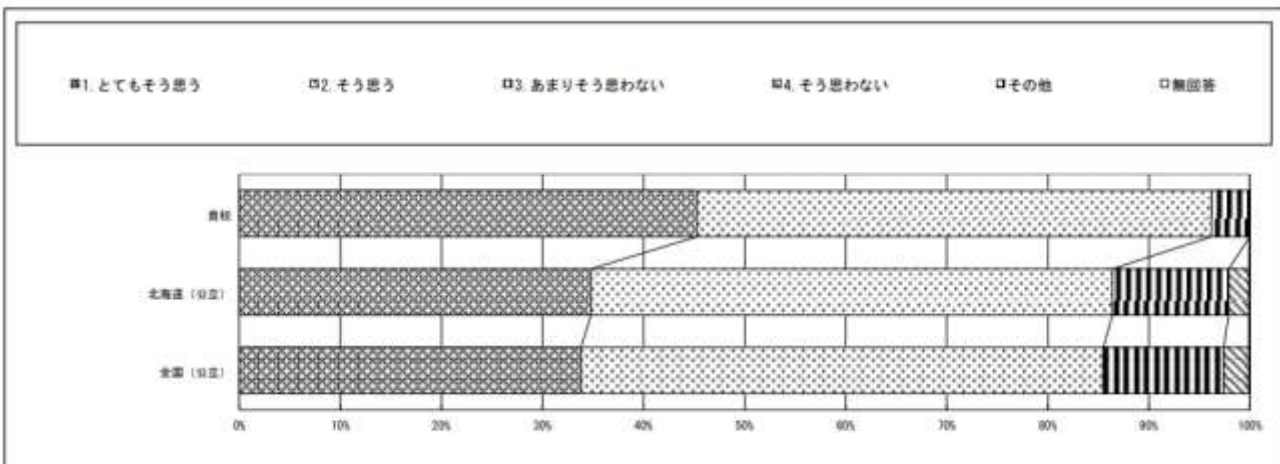


「ほぼ毎日」という答えが、81.1%！

全道全国と比べて驚異的です。

ただ、「なんでも使えばよい」というものではないので、ねらい（あくまで単元の目標）をもってその実現の手段として使うことが大切です。

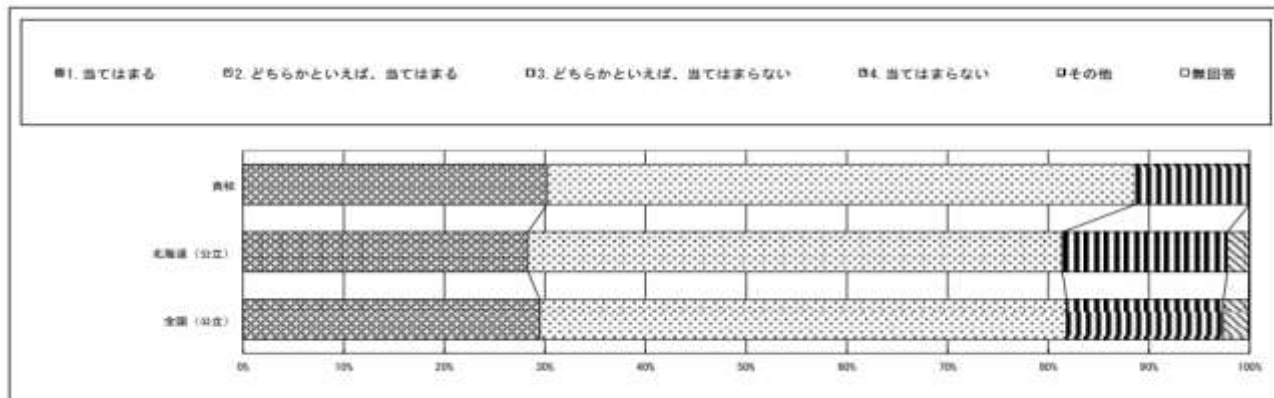
(28-1) 5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる



肯定的解答が96.2%

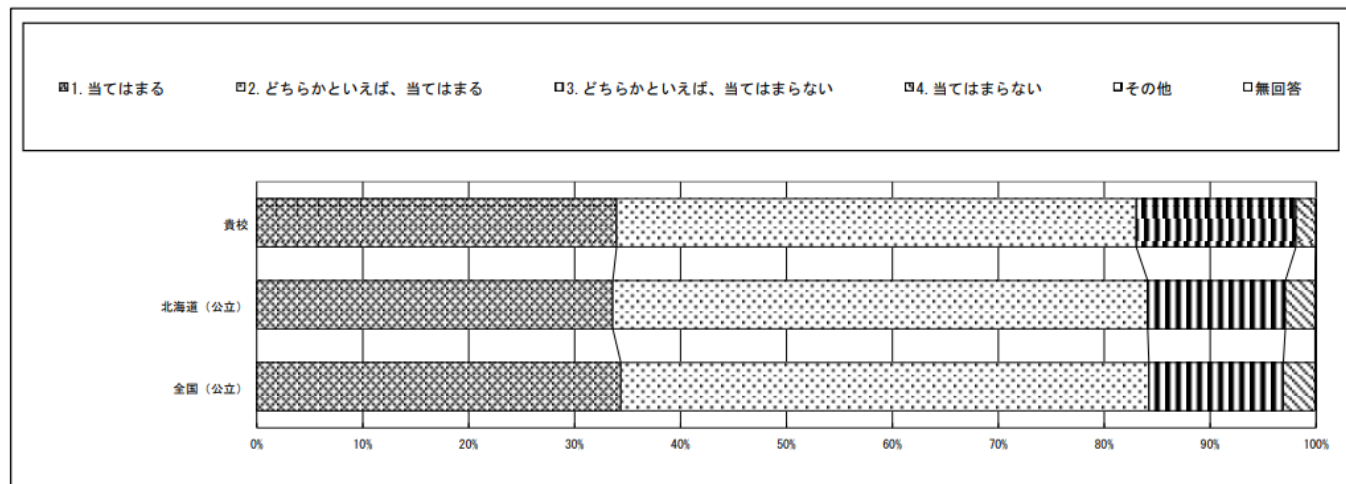
タブレットの仕様により、子供たちは「自分のペース」で安心して学んでいると言えます。

(30) 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



この設問も**肯定的な解答が多くなっています。**

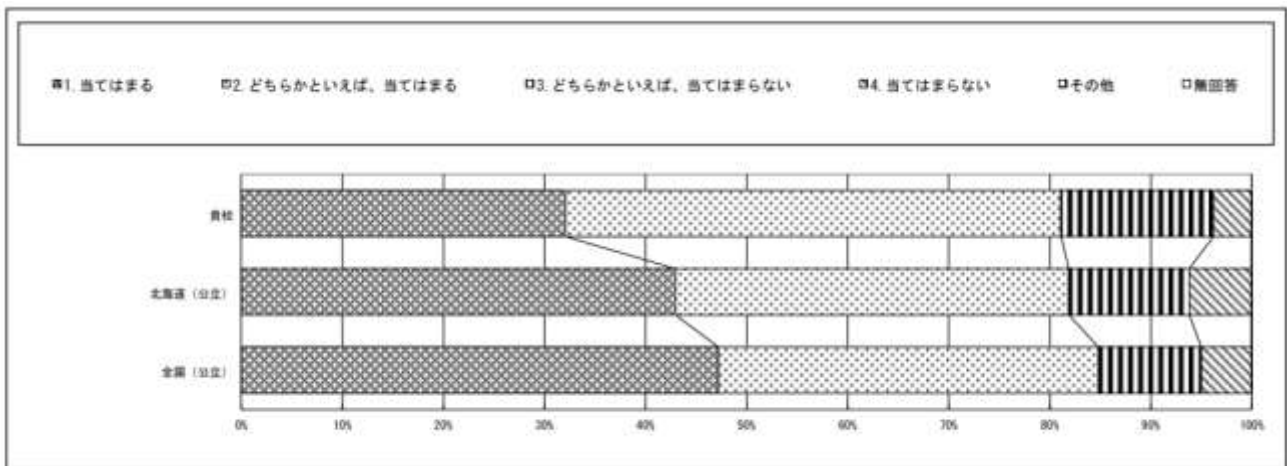
(32) 5年生までに受けた授業は、自分にあつた教え方、教材、学習時間などになっていましたか



この設問は、どちらかと言えば全国から見ると低くなっていると見えます。(ほぼ差はありませんが) 子供たちは「**自分に合った学び**」を求めているのだという事です。

↓↓ 児童質問紙調査で課題と思われるところ ↓↓

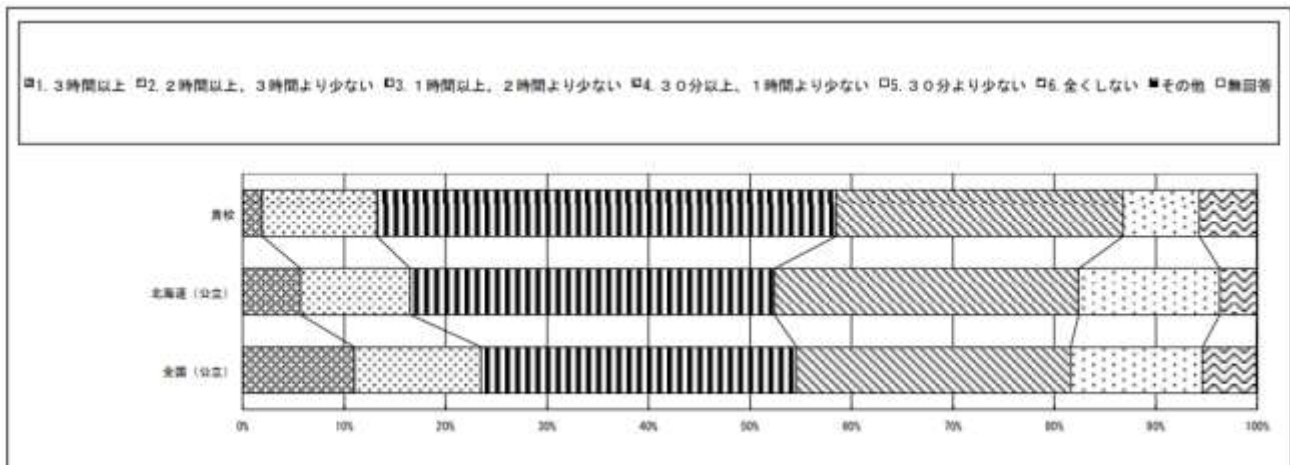
(18) 学校に行くのは楽しいと思いますか



子どもにとって「楽しい学校」であることは、学校改善で必須の事項です。

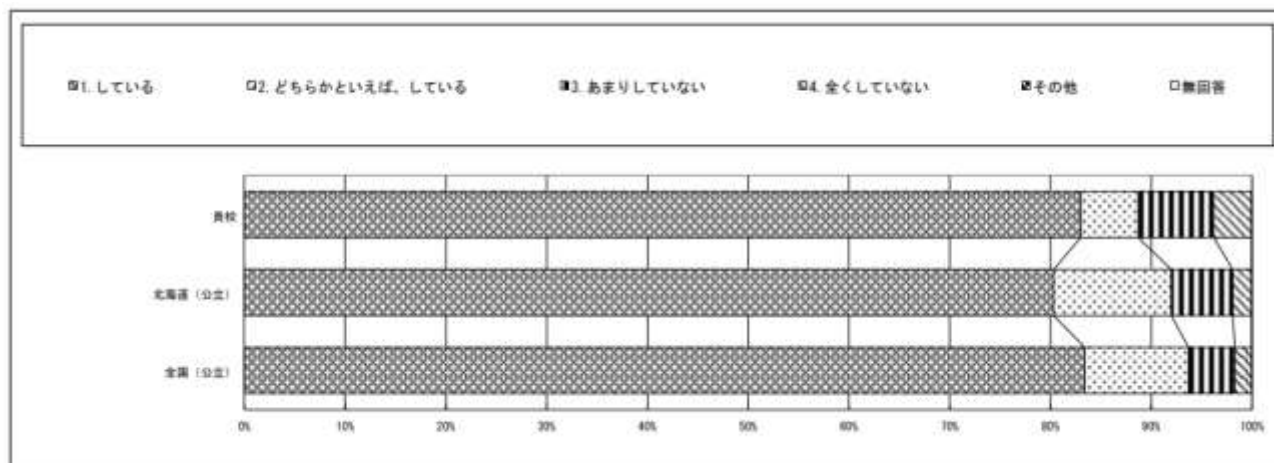
楽しいと思えない子は、何がそうさせるのか「教育相談」等を充実させるとともに、子ども一人一人が充実感を味わえるような学校生活をつくるよう努力を続けます。

(21) **学校の授業時間以外**に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



「1時間以上学習している」子は全国・全道より多くなっていますが、「全くしない」子の割合も多いので、毎日少しでも学習に向かう習慣をつけることが課題です。

(1) 朝食を毎日食べていますか



朝食を食べていない子の割合が他と比べて多いです。
朝食は、健全な学校生活を送るためにもとても必要です。
必ず朝食をとって登校するようご家庭でもご支援願います。

3 結果をうけて

【学力向上】

本校では今年度から「自ら学び続ける子の育成～子どもを主語にした授業への改善を通して～」を重点教育目標に据え、「授業を変える」ことで、子供の育ちを促し、支えていこうとしています。「自ら考えたい」「自分にあった学びをしたい」と考える子供たちがたくさんいることが分かったので、今取り組んでいる授業改善をさらに進めてまいります。

本校の「授業」は大きく2つに分けて考えています。

(1) 子どもと教師で創る授業（総授業時間の約8割はこの授業を行う）

「従来通りの教師の指導計画のもと、教師の関りや働きかけを主としながら、学習目標を達成する授業」

ここで身に付けさせたいのは、「汎用的学びのスキル」です。

「汎用的学びのスキル」とは、子供たちが生涯にわたって「学び続ける」ために必要なものと考えています。

それは、①学習の基礎基本（各教科等における知識・技能）

②学び方の習得（学習過程、学習方法、話し方、聞き方、読み方、書き方、各教科等のみかた考え方）

③学習手段（学習用具の使い方、ICT活用能力、資料活用能力等）

(2) 子どもに学びをゆだねる授業（総授業時間の2割程度を目安）

「学習目標の達成に向けて、子供が自ら学習計画を立て、課題を見つけ、解決の方法を考え、解決する授業」（本校では単元内自由進度学習を中心にしている）

①個別最適な学びの保障

②協働的な学びの充実

この2つの「授業」は、(2)を行うために(1)は必要であり、(2)を行うことで、さらに(1)の授業が変わる。

この「往還」によって、学力の向上を図り、将来にわたって「学び続ける子供」を育てます。
「学び続ける子供」が育つことで、本校の課題も大きく改善される事が期待されます。

令和6年10月 北斗市立大野小学校